

(四) 移殖ノ方法

麒麟菜ハ枯死珊瑚ニ多ク着生スルモノナルニ付枯死珊瑚多キ場所ヲ選ビ植付ス植付ノ際ハ漁夫ヲ潜水セシメ波浪ノ爲流失セザル様珊瑚石ノ間ニ插入又ハ其ノ周圍ニ石ヲ置カシメ種苗刳舟一隻分ヲ約二十坪位ニ植付十三隻分移殖セリ

(五) 前回試験成績

前年度移殖ノ分ハ暴風前ハ相當成長セルモノ多々アリタル由ナルモ暴風ノ爲流失シ僅カシカ残り居ラズ然シ現在殘存セルモノヲ見シニ良ク成長シ一株ニテ約半斤位ノモノモアリ暴風サヘナケレバ相當ノ成績ヲ舉ゲ得ルコト、思ハル

本年度分成績ニ就テハ用務ノ都合ニ依リ未ダ其ノ成績ヲ報告スルニ至ラズ

### 五、垂下式牡蠣養殖試験

#### イ、第一回試験ノ經過

(一) 出張地及出張期間

國頭郡名護町字許田

自昭和七年二月廿四日 至三月二日

(二) 試験場所及試験期間

許田入江ニシテ前年度ト同様ノ場所トス

自二月廿五日 至三月一日

(三) 試験 設備

本年度使用セシ浮力ハドラム罐ヲ利用セル事ニセリ、筏台ノ材料ハ末口三寸角、長サ二間ノ横木拾貳本、同様ノ大サノ桁木用三十六本ヲ適當ノ間隔ヲ以テ組合セテ垂下枠トナシ浮力ドラム罐ヲ片側九個宛兩側共十八個ヲ結び付タリ而シテ各筏ニハ種牡牡蠣垂下ノ爲一尺置キニ三寸釘ヲ打込尙筏台ハ碇綱トシテ徑三八長サ十尋宛ノワイヤーロープヲ以テ四隅ノニ結びツケ二十貫位ノ碇石ヲ以テ筏台ヲ固定セシム此ノ筏台ノ總面積ハ二十四坪トス (別紙圖面通)

(四) 垂下ノ方法

種牡蠣ヲ十二番線亞鉛引針金ニ結び付ケ牡蠣ノ一箇所ニ寄集スルヲ防グ爲メ支管トシテ長サ五寸ノ竹ヲ以テ相互ノ間隔ヲ計リ而シテ種牡蠣附着ノ牡蠣殻八枚ヲ貫通シタルモノヲ一連トセリ  
一連ノ長サ六尺トス之等ノ方法ハ前年度ト同様ニ付畧記セリ此ノ筏台ニ垂下セル總量ハ五五二連トシ、モ下シ得タル附着殻ハ合計四千四百一六個トス尙種牡蠣ノ余リタルモノハ適當ノ箇所ニ垂下シ殘餘セシモ、ナシ

(五) 種 苗

種苗ハ前年度ト同様宮城縣渡波産一年生ノモノニシテ前年九月頃採苗シタルモノヲ使用セリ而シテローレル養蠔會社宮城新昌氏ノ手ヲ經テ本年二月廿三日午前十時入港ノ台中丸便ニテ種牡蠣ビール箱ニテ六箱ハ

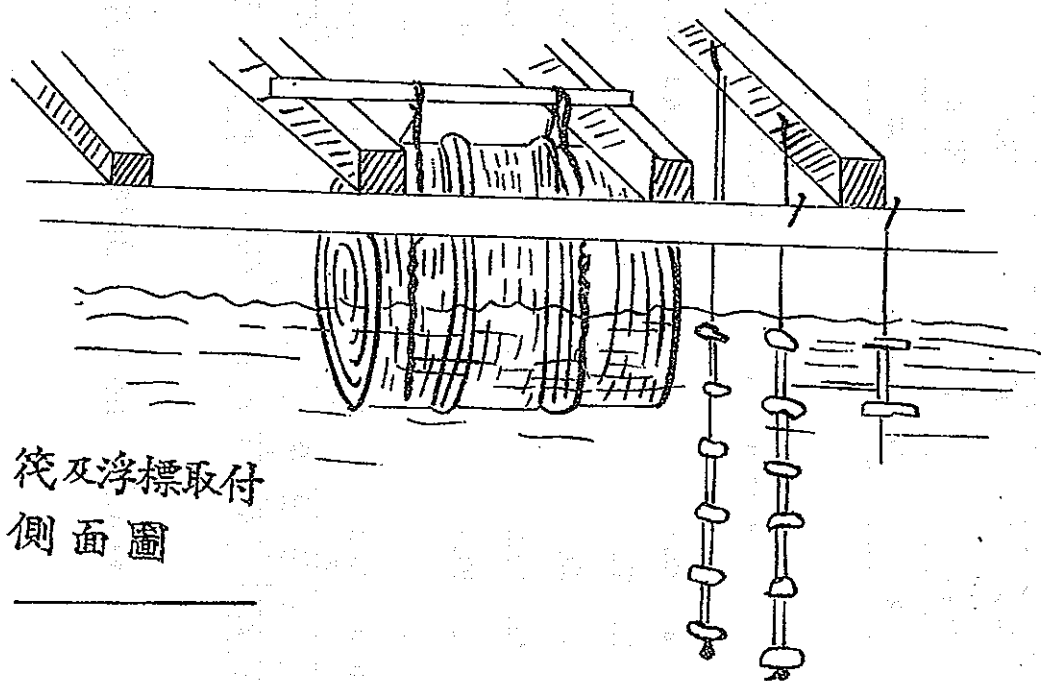
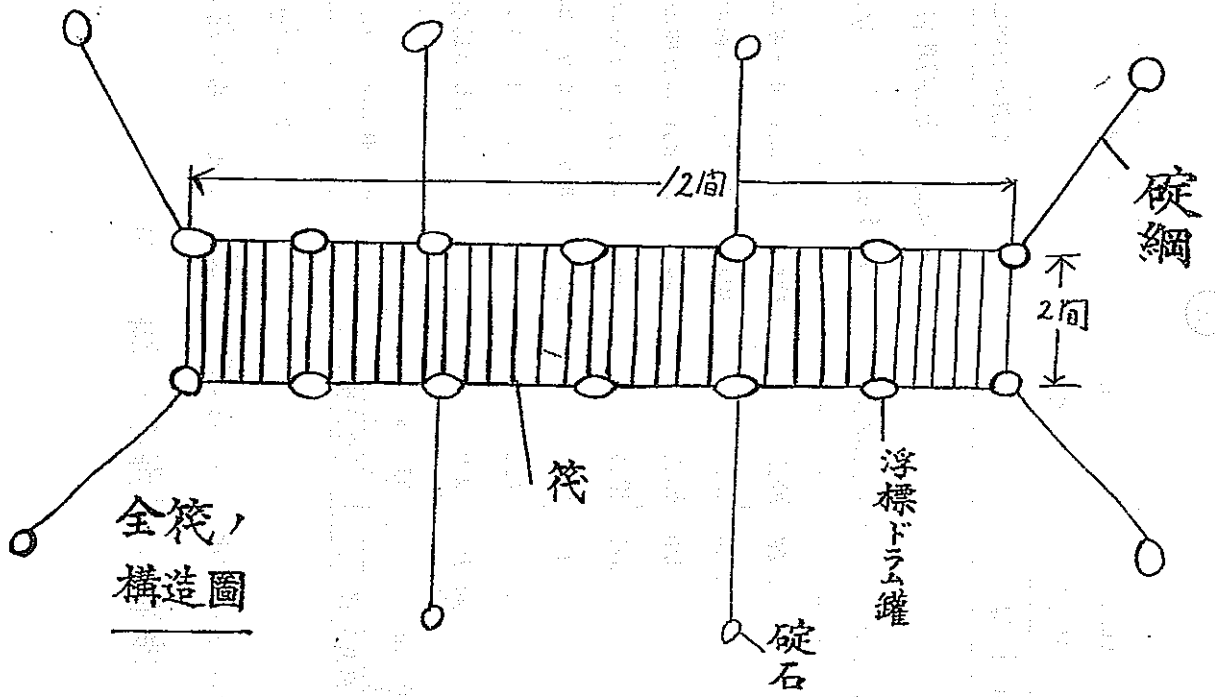
(六) 到着直チニ開箱個數斃死有無等調査セシニ何等異狀ヲ認メズ一時本場冷蔵庫ニ保管シ廿四日發龜津丸ニテ名護町ニ運搬シ同日午后六時無事試験場所許田ニ移シ直チニ開箱シ干瀉面ニ全部散布シ置キタリ  
稚介ノ殼長殼巾

附着殼二十個ニ付稚介ノ大サ稚介ノ附着數等ヲ調査セシニ一枚ニ附着セル稚介ノ個數ハ平均三十個位ニシテ殼長ニ於テ大ナルモノ二、四纏小ナルモノ〇、六纏平均一、五纏ニシテ殼巾ニ於テ平均〇、九纏ノ大サトス

次ニ稚介附着殼一枚ニ付其ノ平均重量ヲ見ルニ何レモ十匁平均トス尙一箱入ノ附着殼數ハ七百四十個位ニシテ種苗ハ前年度ノモノト殆ンド同様ニシテ大差ナシ

(七) 試験期間中ニ於ケル氣象

試験期間中ニハ氣溫急ニ低下シ午前中ニ於ケル氣溫、水溫、比重ハ氣溫十一度水溫ガ八度四比重ハ二〇、七〇午后ニ於テハ氣溫十四度五水溫十二度比重二〇、一四比重ハ平均二〇、一二二、〇迄トス



## 第二回試験ノ経過

本場最初ノ試ミデアル昭和六年三月ヨリ名護町許田入江ニ於テ試験繼續中ナル牡蠣ノ垂下當時ヨリ成績概要ヲ記スニ次ノ如シ

調査月日及経過日數	一段 (五九ケ)		二段 (三五ケ)		三段 (三九ケ)		四段 (四五ケ)		五段 (三二ケ)	
	重量	均一 個重 量平	重量	均一 個重 量平	重量	均一 個重 量平	重量	均一 個重 量平	重量	均一 個重 量平
放養當時三月十一日	三、〇五	〇、〇七	一〇、七五	〇、三〇	一一、〇五	〇、三三	一五、七五	〇、三五	三三、〇〇	三、〇〇
四月廿七日四七日目	五〇、〇五	〇、八五	四八、九五	一、三三	四三、〇五	一、三三	五二、七五	一、二五	四三、〇〇	一、三三
五月 六日五六日目	一六、	二、七	七、	二、二四	八、	二、一八	一四、	三、三三	九、	二、九
五月廿六日七六日目	二〇、	四、〇	一五、	四、三四	一四、	二、五	一五、	四、七	一五、	三、九
六月廿六日一七日目	三〇、	六、一七	二〇、	六、八五	二四、	六、一五	三〇、	六、八九	一九、	五、九
七月五日一一六日目	四〇、	六、八六	二六、	七、五七	二七、	七、〇五	三〇、	七、五六	二〇、	六、六
八月廿六日一六日目	五八、	九、八九	三九、	一一、二八	四九、	一二、七	三九、	八、六七	三〇、	一、五

右表ノ通り各水深別ニ依ル成長率ヲ見ルト上層ガ最モヨク次ガ中層ニシテ下層ガ最モ惡イ  
 次ニ殻長殻巾ノ成長ヲ見ルト

八月廿六日調査	一段		二段		三段		四段		五段		均	
	殻長	殻巾	殻長	殻巾	殻長	殻巾	殻長	殻巾	殻長	殻巾	殻長	殻巾
	二寸三厘	一、一〇	二寸四厘	一、二〇	二寸三厘	一、一五	二寸四厘	一、二〇	二寸三厘	一、一五	二寸三厘	一、一〇
	二寸三厘	一、一〇	二寸三厘	一、一〇	二寸三厘	一、一五	二寸三厘	一、二〇	二寸三厘	一、一五	二寸三厘	一、一〇

即チ垂下后百六十六日ニシテ種苗附着介穀一個平均ノ増量ハ六倍八トナリ穀長穀巾ニ於テハ約五倍五ノ大  
 サニ達セリ此ノ結果ヨリ見ルト成長率ハ他府縣ニ比シ比較的迅速デアル今參考ノ爲左ニ六ヶ月垂下養殖ノ  
 モノニ付神奈川縣ノモノト比較シテ見ルト

穀 長	神 奈 川 縣		沖 繩 縣	
	二月十六日垂下當時	八月廿六日一九二日目	三月十一日垂下當時	八月廿六日一六六日目
穀 長	〇寸壹	二寸二五	〇寸壹	二寸二五
穀 巾	〇、四	一、三	〇、三	一、三
生ガキ一個ノ重量		七、九匁		九、九匁

十月五日調査

調査月日及經過日數	一 段 (五九ケ)		二 段 (三五ケ)		三 段 (三九ケ)		四 段 (四五ケ)		五 段 (三二ケ)	
	重量	均一個重量	重量	均一個重量	重量	均一個重量	重量	均一個重量	重量	均一個重量
十月五日二〇五日目	七、八匁	三三匁	四、〇匁	三三匁	五、四匁	三三、八匁	四、六匁	一〇、四匁	四、六匁	一三匁

垂下后二百五日ニシテ七倍九ノ増量ニ達セリ

次ニ穀長穀巾ノ測定

十月五日調査	一 段		二 段		三 段		四 段		五 段		平 均	
	穀 長	穀 巾	穀 長	穀 巾	穀 長	穀 巾	穀 長	穀 巾	穀 長	穀 巾	穀 長	穀 巾
穀 長	二寸三〇	一、三	二寸七〇	一、四〇	二寸五〇	一、三〇	二寸一〇	一、一〇	二寸三六	一、二四	二寸三六	一、二四
穀 巾	一、三	一、三	一、四〇	一、四〇	一、三〇	一、三〇	一、一〇	一、一〇	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四

次ニ肉分身入ニ就テ調査スルト

生 牡 蠣	壹 個 平 均		生 蠣ニ對ヘル百分率		介 殼 内 容ニ對スル肉分%		介 殼 内 容ニ對スル水分%	
	重 量	容 積	重 量	容 積	重 量	容 積	重 量	容 積
空 殼	一四、七	三、〇〇	五九、九%	五、一%				
介 殼 内 容	八、七	一、八	四〇、一%	四、九%	一六、六%	一八、六%		
肉 分	一、〇	三、二	六、〇%	八、九%				
水 分	五、〇	一四、〇	三四、一%	三九、〇%			八三、三%	七〇、〇%

垂下后二百五日ニシテかき一個平均ノ増加割合ヲ見ルト〇、五匁平均ノ稚介ガ重量一四匁七ニ達シ約二五倍四ニ増加シテ居ル

十一月十三日調査

牡蠣ノ増加量ハ總重量三貫二百四十匁ニ達シ介殼ノ増長ハ平均殼長三寸殼巾一寸三分トナツテキル  
水溫比重ノ測定

日 時	氣 溫	水 溫	比 重	備 考
十一月十三日午前六時		二四、五	三三、三	
全 午 后 二 時		二七、五	三三、一	

浮游生物ノ調査

許田入江ト外海トニ於ケル浮游生物ノ種類ヲ調査セシ結果ハ養殖場許田入江ヨリ午前六時採集セシハ橈脚類某脚類ガ九十%ヲ占メ其他數種ニシテ植物性ハ全缺發見セラレズ午後七時採集ノモノニ依ルト橈脚類某脚類ノ多イコト前ト同様ナルガ其他最モ目新シイモノハ被囊類中ノ「オイコブレラ」ガ多數ニシテ植物性ハ同様發見セラレズ而シテプランクトンハ一般ニ小形ナリ

古邊底外海ニ於テ採集セシモノ次ノ通橈脚類某脚類等大部分ニシテ其他「サジフター」「アンネリーダ類夜光虫ノ「アカンソメトロン」類ニシテ植物性トシテハ「レゾレニア、キトセーラス」ノ硅藻類ガ極ク僅少認メラレ浮游生物ノ大サハ内海ニ比シ一般ニ大形デアアル  
十一月三十日肉分身入調次ノ通り

生 牡 蠣	一 個 平 均		生ガキニ對スル百分率		介殼内容ニ對スル肉分%		介殼内容ニ對スル水分%	
	重 量	容 積	重 量	容 積	重 量	容 積	重 量	容 積
空 殼	二〇、〇	四九、九cc	六、〇%	四三、四%				
介 殼 内 容	七、八	二五、六	三九、〇%	五四、六%				
肉 分	一、七	六、四	八、五%	三三、三%	三三、七%			
水 分	六、一	一六、二	三〇、五%	四一、〇%		三三、七%	六八、一%	七五、〇%

殼長ハ三寸三分殼巾一寸三分七厘ノ増ヲ示シテ居ル即チ垂下二百六十日目ニシテ殼長殼巾共ニ約七倍五ノ増加ヲ見又生牡蠣一個平均ノ増加量ハ約四十倍ニ達シテ居ル右表ノ肉分測量ハ水切一時后ニ於テ測量セシモノデアアルガ重量容積共ニ少ナク營養價值甚ダ少キヲ示シ身入狀態ハ一般ニ不良デアアル此ノ原因ハ明ラカニ牡蠣ノ餌料ニ依ルモノノ認メラル